

保護者と学校で相互に安否確認のできる学校防災 SNS

○鈴木猛康¹・秦 康範¹・宮本 崇¹

¹山梨大学地域防災マネジメント研究センター

1. はじめに

突発性災害においては、通信手段の途絶により、家族、親戚、友人等の安否確認が困難となる。とくに学校では、保護者にとって生徒の安否確認がもっとも大切であるのはもちろんのこと、学校にとっても保護者の安否情報は、生徒を安心させるとともに、保護者への生徒の引き渡しの可否、時期を知る上で重要な情報である。

筆者らは、総務省の ICT 街づくり推進事業「産学官協働の ICT 街づくり（代表者：市川三郷町・久保眞一町長、プロジェクトリーダー：鈴木猛康）」において、町の災害情報システムである災害対応管理システムと情報連携できる市川三郷町 SNS を開発した。本稿では、この市川三郷町 SNS における学校防災機能、とくに安否確認に関して、実際の小、中学校へ適用を試みたので、その結果について報告する。

2. 市川三郷町 SNS

本事業では、住民・行政協働の災害時応急対応を支援するために、住民用に市川三郷町 SNS を開発し、SNS と行政側の災害対応管理システムとをシステム連携させ、住民と行政の災害時情報共有の円滑化を実現させた。市川三郷町 SNS は Web アプリケーションであり、平常時は役場や組からの情報（閲覧板機能）閲覧、買い物支援等のサービスが提供する。一方、市川三郷町が災害対応管理システムを立ち上げると、自動的に SNS は災害モードとなり、安否確認、町からの災害情報閲覧（テキストとマップ）、町役場への通報（災害対応管理システムの通報機能とデータ連携）が可能である。

市川三郷町 SNS は、組単位（地域コミュニティにおける町内会レベルの最小単位）でコミュニティを構成しており、組単位の安否確認活動によって、被災者の救助や病院搬送の要請を、町役場への確に伝達することによる迅速な災害対応を可能とするものである（鈴木他、2011）。そのため、組単位の世帯情報を、住基台帳データから作成する機能を有している。市川三郷町では、住基台帳データから家族の氏名データを抽出し、SNS の世帯情報として登録し、事業の実証実験に参加することを、黒沢地区の住民に提案した。その結果、

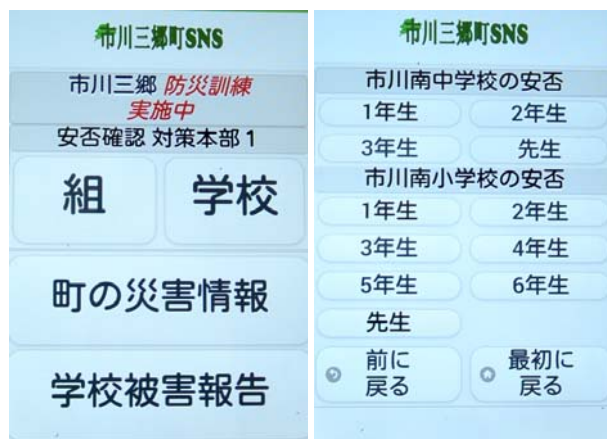


図1 市川三郷町 SNS(左)と学校防災 SNS(右)のトップ画面

地区の全住民 1159 人の 8 割に当たる 910 人の参加が得られた。

3. 学校防災機能の特徴

(1) 学校防災 SNS

市川三郷町 SNS に学校教職員用の ID、パスワードでログインすると、災害時には図 1 左のトップ画面となる。災害対応管理システムが災害を立ち上げていない平常時には、学校防災 SNS は先生、生徒の個人情報管理を行い、災害時には安否確認、学校被害の登録、閲覧ができるこの画面に自動的に切り替わる。

図 1 右はスマートフォン上で学校ボタンを押した際の学校 SNS のトップ画面である。上から小学校、中学校の順に、学年（クラス）、教員（先生）のボタンがあり、学年を選択すると生徒の安否を、先生を選択すると先生の安否を登録することができる。

一方、学校被害報告ボタンを押すと、建物の被害状況、ライフラインの被害状況を登録することができ、学校が避難所として利用可能か否かの判断材料となる。

(2) 安否情報、学校被害に関するデータ連携

学校防災 SNS の特徴の一つは、生徒と生徒の家族の安否情報が双方向で共有されることである。生徒は生徒の世帯の構成員として紐付けされているため、学校で登録された生徒の安否は、保護者が市川三郷 SNS に世帯情報を登録していれば、自宅であろうと職場であ

ろうと、家族の安否情報として閲覧することができる。また、下校後、休日に家族が登録した生徒の安否情報は、学校防災 SNS で閲覧することができる。図 2 に 5 年生クラスの安否確認と生徒の世帯の安否確認の画面を示す。生徒、先生ともに、全員無事ボタンを配置し、登録時間の縮減を図った。もちろん、生徒 1 名が負傷の場合等、全員無事の登録後、負傷者を選択して軽傷等を登録することにより、登録時間を縮減することができる。

市川三郷町 SNS は災害対応管理システムと情報連携しており、災害対応管理システムの学校安否画面上で学校を選択することにより、市川三郷町の教育委員会だけでなく、すべての部局において、生徒、教職員の安否情報を確認することができる (図 3)。

4. 安否確認実験

雪害の影響が町民の生活から薄らいだ 4 月末に、市川南小・中学校の安否確認実験を実施した。3 月の卒業、4 月の入学を反映させ、生徒と先生のリストの更新を、市川三郷町 SNS 上の学年繰り上げ機能、生徒・先生の新規登録機能を用いて、教育委員会が自ら実施することができた。また、新小学 1 年生の世帯情報の紐付けも、教育委員会が行った。安否確認実験の 9 日前に開催された保護者説明会では、学校より保護者へ安否確認訓練の説明が行われた。

地震発生を告げる校内アナウンスに対応し、生徒たちは教員の指示に従って安全な姿勢を取り、揺れが収まったのを確認して教員が市川三郷町 SNS に安否登録を行った。一方、教頭は「学校被害」報告機能を用いて建物被害、ライフライン被害を入力し、職員室で教員の安否を登録した。その結果、小学校の市と 38 名、中学校の生徒 29 名、小学校の教員 13 名、中学校の教員 10 名のうち、病欠の中学生 1 名を除き、生徒、教員の無事ならびに学校被害を登録し、その結果は、町役場が市川三郷町 SNS と災害対応管理システムで確認した。

保護者は小・中学校合計で 27 世帯が市川三郷町 SNS に登録していた。そのうち 8 世帯の保護者より、13 名の生徒の無事を確認したとの回答を得た。一方、10 世帯の保護者は確認できなかったという回答を得たが、その理由は安否確認実験があることを忘れていた、あるいはスマートフォンを保有しておらず、職場で PC を利用できる環境がなかったからという理由であった。アンケートに回答のない 9 世帯のうち 1 は生徒が欠席した世帯、残りの 8 は地区外の住民で住民票の登録がなかったり、世帯情報登録の承諾が得られなかったりして、市川三郷町 SNS に世帯情報が登録されていない世帯である。

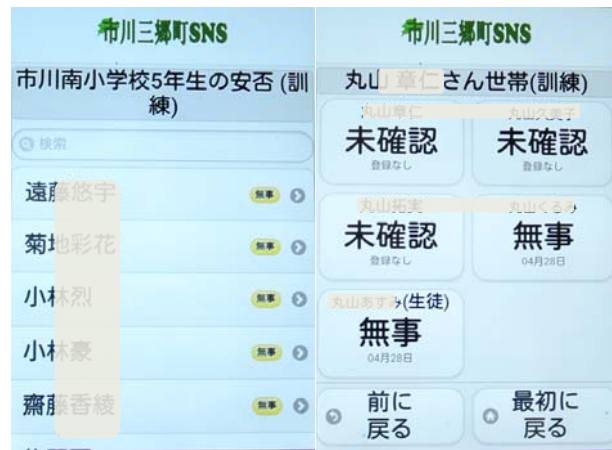


図 2 クラスの安否確認(左)と生徒の世帯の安否確認(右)閲覧



図 3 災害対応管理システム上の安否確認画面



写真 1 授業中の安否確認の状況

5. まとめ

保護者と学校で相互に安否確認のできる学校防災 SNS を開発した。この SNS のコミュニティとして山梨県市川三郷町の市川南小学校と市川南中学校を作成し、小学校区の地域 SNS とのデータ連携、市川三郷町災害対応管理システムとのデータ連携を実現し、学校の安否確認訓練によって生徒の安否を家族、市川三郷町が確認できることを検証した。

参考文献

鈴木猛康, 秦康範, 佐々木邦明, 大山勲(2011): 住民・行政協働による減災活動を支援する情報共有システムの開発と適用, 日本災害情報学会誌, No.9, pp. 46-59.